

報 告

第四十四回經濟研究会報告

十一月十日(火) 於 經濟学部研究室

發表者 岩根達雄教授

座 長 宗藤圭三教授

テーマ 銀行の支払準備について

(出席者)

黒松、中西、住谷、松山、小松、中島、西川(良)、伊藤、  
西村、笹田、古米、辻、黒田、柳原、渡辺、小林、今村、  
西川(宏)

今日の信用經濟の発達した諸国においてはその全貨幣供給において銀行貨幣の占める重要性が強調されねばならない。ここで銀行貨幣というのは主として商業銀行における、主に小切手の振出を通じて要求次第支払われるところの預金、我が国で言えば当座預金がこれに相当する。この銀行貨幣の供給を支配する重要な要因は、支払準備の量と、支払準備率である。このことは例えば、フィリップスの公式を見ても明らかである。しかし彼の公式においては、インターナル・ドレイン即ち、預金の創造に伴う銀行組織外への現金の流出が考慮されていないという点は指摘されねばならない。支払準備率に関しては支払準備制度によって規定せら

れる場合である。我が国においては準備預金制度の名称でもって行われている。

次にこの銀行(組織全体)の支払準備——ここでは現金準備に限定し、中央銀行預金と手元現金とよりなるものとする——は如何なるルートを通じて供給せられるかを見るときは、

- (1) 金及び(又は)外貨の流入
- (2) 中央銀行の証券投資の増加
- (3) 中央銀行の貸出の増加
- (4) 中央銀行における政府預金の減少
- (5) 流通現金の、商業銀行への還流

の五項目とすることが出来よう。これらの逆の場合は現金準備の減少となることは言うまでもない。次にこの現金準備の供給と、現金通貨の需給との関係を見よう。右の現金準備の供給ルートの研究で参考にしたケインズ(貨幣論第II巻)の樹てた関係、

公衆の手中にある流通通貨 + 加盟銀行の準備資源  
 = 中央銀行の總資産 - 自らの資本と準備金 - 政府預金  
 - 加盟銀行以外の中央銀行の預金者の預金

の修正式

加盟銀行の準備資源の増加 = (金の増加 + 投資の増加  
 + 貸出の増加) - 公衆の手中にある流通通貨の増加  
 - 政府預金の増加

を更に変形して、

公衆の手中にある流通通貨の増加 + 加盟銀行の手元現金

の増加 = (金の増加 + 投資の増加 + 貸出の増加)

— 加盟銀行の中央銀行預金の増加 — 政府預金の増加

を意味する。

銀行券増発 = (金の増加 + 投資の増加 + 貸出の増加)

— 加盟銀行の中央銀行預金の増加 — 政府預金の増加

と増を意味する。金の増加は現在これを無視しているからこれを除く。

銀行券増加 = 財政資金の散超 + 国債買 + 貸出金の増加

+ 民間預り金の減少 + (その他)

なお、日本銀行に「日本銀行券発行額」を「国債買 + 民間預り金」